

■音声ガイド・1 ～展覧会の構成、展示室 A(交流スペース)の会場案内～（約 5 分）

今村遼佑×光島貴之 感覚をめぐるリサーチ・プロジェクト〈感覚の点P〉展の音声ガイドです。

この音声ガイドでは、本展の構成説明と展示室 A についてご案内します。

受付でハンドアウトをお配りしています。表面が作品リスト、裏面が会場マップです。

会場マップの触図版をご希望の方は、受付スタッフにお声がけください。

作品リストや会場内のテキストは、オンラインでもお読みいただけます。

お持ちの端末や貸出用の端末で、QR コードを読み込んで、ご利用ください。

ギャラリーからのご挨拶、企画原案者による展覧会タイトルの説明、出展作家のステートメント、作品情報と解説などは、テキストデータでも公開しています。

ウェブサイトには読み上げ機能もあります。

――続いて、展示室のご案内です。

展示室は、3 つあります。場所は、2 箇所に分かれています。

展示室 A は、今居る公園通りに面した部屋です。

展示室 B・C は、展示室 A を出て廊下を進んだ先にあります。

詳しくは、会場マップでご確認ください。

ハンドアウトの他、凡例付きの触図マップを、2 箇所に設置しています。

展示室 A の受付横と、展示室 B・C の受付手前です。

それぞれ設置箇所に合わせた内容の地図と凡例を 3 枚 1 組でご用意しています。

ハンドアウトのマップと合わせてご利用ください。受付の印は、三角です。

――続いて、鑑賞についてのご案内です。

本展にはさわれる作品があります。どれも大切な作品です。ぜひ、やさしくふれてください。

展示室 A と B にある光島のレリーフ状の作品は全てさわれます。

展示室 B にある今村のインスタレーション作品《プリペアド・トイピアノ》は、ピアノの鍵盤を弾く

ことができます。

ピアノから黒い線がのびています。黒い線や、その先の物には、さわらないでください

展示順は自由です。作品は、おおむね時計回りに展示しています。

——続いて、展示室 A の作品についてのご案内です。

《さやかに色点字》は、受付からみて、部屋の対角線上からはじまります。

中原中也の詩から抜き出したフレーズを表現した作品が 37 点あります。

作品下の壁や床に記された番号と、受付でお配りしているリストが対応しています。

1 番から 34 番までの作品が、時計回りに壁、柱、壁の順で並んでいます。35 番からは、次の展示室 B に続きます。

《触覚のテーブル》は、今村と光島の共同作品です。

受付からみて左側の空間にあります。

光島がワークショップで用いてきた多様な手ざわりのカードをもとに、今村が素材をバリエーションさせて、テーブルサイズで制作しました。

光島の使用していたカードは、展示室 B のリサーチ資料コーナーに展示されています。

《触覚のテーブル》のワークショップの記録映像もモニターで上映しています。

音声は、2 種類あります。モニターからの音声と情景を言葉で説明する音声ガイド付きの音声です。

音声ガイド付きの音声は、ヘッドホンをつけてご利用ください。

なお、展示室 A には、今村の作品《プリペアド・トイピアノ》に関連したしかけが、3 つあります。ぜひ探してみてください。

展示室 B と C へは、受付側の扉を抜け、廊下をまっすぐ進んでください。

途中、点字ブロックがトイレに向かって曲がっていますが、そのまま直進してください。

次の展示室への誘導が必要な方は、受付スタッフにお声がけください。

別のスタッフが参りますので、少々お時間をいただく場合がございます。

他にも、お困りのことがございましたら、近くのスタッフまでお声がけください。

廊下の途中には、今村の映像作品《詩に触れる》があります。

この作品の解説は、オンラインをご確認ください。

以上が、本展の構成説明と展示室 A のご案内です。

どうぞゆっくりお楽しみください。

■音声ガイド・2 ～展示室 B・C (展示室 1・2)の会場案内～ (約 5 分)

今村遼佑×光島貴之 感覚をめぐるリサーチ・プロジェクト〈感覚の点 P〉展の音声ガイドです。

ここでは、展示室 B と C についてご案内します。本展の構成や展示室 A については、もう一つの音声ガイドをご利用ください。

今いるのは、展示室 B と C の入口の手前です。

このテーブルを進み、右手が展示室 B、左手が展示室 C です。

――まず展示室 B についてご案内します。

展示室 B には、今村・光島の作品とリサーチ資料を展示しています。

リサーチ資料は、室内の左側、壁に沿って並ぶテーブルにあります。今村と光島を中心とした感覚を巡るリサーチの資料が並んでいます。

テーブルは、4 つの島に分かれています。

10 件以上のリサーチ資料が、各テーブルの四辺を回りながら見るようなかたちで置かれています。

自由にふれてご鑑賞ください。

リサーチ毎に、ハガキよりやや縦長サイズの説明カードがあります。タイトルのみ、点字を併記しています。

会場に入ってすぐの最初のテーブルには、このリサーチについての説明があります。その隣に、今村と光島のブログ「往復書簡」を印刷したファイルを置いています。

「往復書簡」は、オンラインからも閲覧可能です。

展示室 B の中央には、小さな机に 1 台のトイピアノが置かれています。今村の作品《プリペアド・トイピアノ》です。トイピアノから、黒い線が 32 本伸びています。

黒い線は天井や床や壁を伝って、室内に転々と繋がったバケツやスタンドライトなど、さまざまな物につながっています。

黒い線やその先の物には触れないでください。足元にもご注意ください。

お困りの際は、お近くのスタッフにお声掛けください。

トイピアノは、椅子に座って弾くことができます。

室内右手の壁 2 面には、光島の作品が展示されています。

《プリペアド・トイピアノ》を超えた先の壁を基点に、左から右へと並んでいます。

展示室 A から続く光島のレリーフ状の作品は、左から《さやかに色点字》の 35 番から 37 番までの作品があります。続いて今回の新作《思い出せない遠くの色》、《美術館で言葉の毒を取り換える》、《壊れかけた全体を取りもどす》、《色と触覚に翻弄されて》、《速く歩いて記憶に残す》の 5 点が並んでいます。

展示室 B については以上です。

――次に、展示室 C についてご案内します。

展示室 C では、光島が屋外彫刻作品をさわりながらスマートフォンで撮影した映像作品《手でみる野外彫刻》を展示しています。編集は今村が担当しました。

10 分から 15 分程度の映像作品が、全部で 4 点あります。

入って右手の壁に、大きく映像が投影されています。左手の壁沿いに、3 台のモニターが並んでいます。1 点が横型、その他 2 点が縦型です。

壁に投影される映像は、《手でみる野外彫刻 ― アンソニー・カロ《発見の塔》1991 年》です。

東京都現代美術館にある、建物のように中に入ることのできる大きな屋外彫刻を触りながら撮影しました。本展に向けて新しく制作された作品の 1 つです。

左手壁のうち、横型のモニターに流れているのは、《手でみる野外彫刻》です。

京都で開催された〈感覚の果て〉展に出展されていた映像作品です。光島が初めて、この手法で制作した映像作品で、2023 年に制作されました。

縦型のモニター 2 点も、新作です。

モニターに向かって左にあるのが、京都の^{ただす}糺の森で、自然の樹木にふれながら撮影した《手でみる野外彫刻 ― 木にふれる》、右にあるのが、渋谷の道玄坂にある屋外彫刻を撮影した《手でみる野外彫刻 ― 渋谷道玄坂界限》です。

この他、展示室 C や廊下にも、《プリペアド・トイピアノ》からのびるしかけが 2 つあります。ぜひ探してみてください。

以上で、展示室 B と C の案内はおわりです。

どうぞごゆっくりお楽しみください。